様式7（市教委報告用）

三鷹市教育委員会　様

5三鷹五小発第153号
令和6年3月14日

校長　中島　亮子
（公印省略）

# 令和5年度　三鷹の森学園　三鷹市立第五小学校　　学園・学校評価報告書

このことについて、下記のとおり報告いたします。

記

## 学園評価　※学園内で統一記述

| 今年度明らかになった課題のうち、特に次年度の重点とすること | 来年度の重点課題を解決するための改善方策 |
|---|---|
| ●「豊かな心」について、CS委員からも高い期待が寄せられており、重点に位置付けていく。<br>●学園研究については、3校の共通理解に立った研究の流れを生かし、児童・生徒の資質・能力の向上に結び付く効果的な研究をさらに進めていく。<br>●学園・学校評価については、実際の学校教育の質的向上にさらにつながっていくよう、評価項目や運用方法を工夫し、評価のための評価ではなく、よりよい学園・学校づくりに具体的につなげていく。 | ●「豊かな心」の育成を教育課程編成上の重点に位置付け、児童・生徒の交流活動や各校の特別活動等の充実の中で育成する。<br>●学習指導要領のより深い実践と検証を進めていく時期であることから、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を一層進める。<br>●CS委員をはじめとした地域や保護者の皆様に、学校をさらに良く見ていただく。より適切な評価項目となるよう項目や評価規準の改善を図る。 |

| 取組項目 | 今年度の重点目標 | 成果 | 課題と改善方策 |
|---|---|---|---|
| コミュニティ・スクールの運営 | スクール・コミュニティの創造に向けて、地域・学校協働活動の充実を図る。 | ○3校共通で取り組んだ「地域未来塾」について、地域人財の活用状況に着目し、地域・学校の協働活動の指標とした。人財活用については、今年は年度途中で3校共にボランティアの増員が実現し、体制の拡充が図れた。<br>○参加児童・生徒からも、地域未来塾に参加したことが自分にとってプラスになっていると肯定的な回答が得られていることから、一定の効果が認められる。また、年度中に、第2回目の募集を行ったところ、2校で参加児童・生徒の増加があり、活動の充実につながったと考えられる。 | ●活動の適正化とそのための人材確保。<br>　活動の内容が児童・生徒の豊かな心の育成にとって適正であるかの確認と、活動のための人材をどう確保するか。<br>●更なる活動の充実。<br>　1年間の長いスパンの中でだけでなく、活動をしながら短いスパンでの改善も行いながら、活動を充実する取り組みが重要。<br>●担当やボランティア任せにするのではなく、基本方針や運営方針を共通理解し、定期的に課題を共有しながら進める。<br>●今年、試行的に行った第2回募集が効果的であったことからわかるように、活動につい継続的にてPRしたり、年度途中の募集を行ったりし、活動についての共通理解の深化を図りつつ、さらなる参加の拡大を図る。 |
| 小・中一貫教育校としての教育活動 | 地域の教育資源を活用したカリキュラム・マネジメントを推進する。 | ○『主体的に学習に取り組む態度』の指導と評価の在り方～『カリキュラム・マネジメント・ガイド』を活用した授業実践」の研究テーマの下、授業研究に取り組んだ。「教科・領域間のつながり」、「小・中学校のつながり」、「地域とのつながり」の3つの観点に沿った研究授業を6つ行った。協議も活発に行われ、学んだことをそれぞれが活かすことができた。 | ○全教育活動を通じて、よりカリキュラム・マネジメントを意識していくこと。<br>○地域の教育資源を更に活用していく。<br>○「カリキュラム・マネジメント・ガイド」を生かした実践を重ねるとともに、「粘り強さ」、「学習の調整」という点から、自己評価を工夫するなど、更なる授業改善を学園全体で進めていく。<br>○SC推進員を中心にコミュニティスクール委員会、地域学校協働本部、3校PTAや地域団体との連携を図り、教育資源の情報を収集し活用していく。 |
| （知）確かな学力 | 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた取り組みを推進する。 | ○『主体的に取り組む態度』の指導と評価の在り方」をテーマに、学園内で研究授業などを通して授業改善の視点に立った取り組みを進めることができた。<br>○学習活動におけるタブレットの活用を、さらに充実させることができた。8月からの新システムへの移行に伴いタブレット活用の幅が広がったことも効果的になっている。 | ●授業研究については、今年度の成果を学園全体で共有・確認をし次年度にさらに発展させていく。<br>●タブレットの活用については、使い方に課題が見られる児童・生徒もいるため、活用の指導の充実を図る。<br>●今年度の成果をもとに、学園研究授業やその後の協議会において、教員同士での話し合いも充実させ、実践を更に深化させる。<br>●GIGAスクールマイスターを中心に、学習用タブレット端末の活用事例を共有し、学習効率の向上につなげられるようにする。 |
| （徳）豊かな人間性 | あらゆる教育活動を通して、他者との関わりを大切にし、協働して課題解決に取り組もうとする意欲を育む。 | ○中学校では、児童会・生徒会交流会、熟議において、個人、グループ、全体での意見交流を通し生徒が主体的に関わるデジタル・シティズンシップ教育の充実を図った。さらに、プレ中学生体験や部活動体験を通し、小中学生の交流を深めることができた。地域の行事に昨年度以上にボランティアとして参加することができた。<br>○小学校では、プレ中体験、部活動体験、小・小交流を通を行った。プレ中体験や部活動体験では、中学校の授業を受けたり、中学生から学校の説明を聞いたりすることができた。小・小交流では自分たちが考え | ●年間指導計画に基に、多様な教科において、乗り入れ教員、地域人材等、教育活動のさらなる充実を図る。<br>・SC推進員との連携を図る。<br>・学園内の情報共有、CS委員会との連携をより一層図る。 |
| （体）健康・体力 | 自らの健康・体力の保持・増進に努め、望ましい生活習慣を身に付けた児童・生徒を育成する。 | ○中学校から小学校への乗り入れ授業では、中学校教員の専門性を生かした指導により、技能の習得と学習意欲の向上が促進され、体力・運動能力の向上を図ることができた。<br>○体育の授業だけでなく、休み時間等も活用した縄跳びや持久走、体力づくり等、運動に親しむ活動を実施し、体力・運動能力の向上を図ることができた。 | ①新体力テストの結果から、多くの学年において全国の平均値ほ下回っている。<br>②就寝時間が遅いなど、生活リズムが乱れ、規則正しい生活習慣の定着ができていない児童・生徒が見られる。<br>①体育の授業改善を図るとともに、運動に親しむ活動等、年間を通した運動の日常への取組を計画的に実施していく。<br>②様々な機会を捉えて、規則正しい生活習慣の大切さについて児童・生徒の意識を高めるとともに、学校だよりや保護者会等を活用して、保護者への啓蒙を図っていく。 |
| 特色ある教育活動 | 地域人財の活躍、学校周辺環境を活用した人間力・社会力の育成 | ○学校ホームページや学校だよりを活用し、教育活動の情報を適切に発信することができた。<br>○ SC推進員及びCS委員会地域サポート部との連携により、地域の教育資源を活用した授業や学園サポーターを活かした授業を行うことができた。地域とのつながりを活用することで、「知的資源」としての広がりへとつながった。 | ●校支援での配信等も行っているが、校支援の保護者の開封率が上がらない。<br>● 地域人財を授業に取り入れることは、学年により差が出ることがある。<br>●学校だよりや保護者会等を利用し、校支援の開封率が上げるように呼びかけていく。<br>● 地域人財を活用した授業を更に取り入れられるように、学校とSC推進員及びCS委員会地域サポート部との連携を図り、地域の教育資源の掘り起こしを行っていく。 |
| 教育の質の向上を目指した学校の働き方 | 教職員の働き方改革と学園の教育活動の充実・向上の両立を図る。 | ○　校務支援員やスクールサポートスタッフなどの人的配置を活用するなどして、校務処理の一層の効率化を図ることができ、業務の軽減が毎年進捗している状況である。オンラインによる会議も常態化しており、負担軽減につながっている。<br>○　働き方改革に対する教職員の意識も年々向上し、退勤時刻の早期化や残業時間の減少などにも現れている。余裕ができた時間を授業準備や児童・生徒の対応に割くことが可能となっている。<br>○　昨年度に引き続き、校務分掌の見直しや業務改善を行うことで、業務量は減少傾向にある。学校全体で、働き方改革を進め | ①　来年度から新たに配置される校務支援員などの人的資源をより効果的に活用して、更なる効率化を図ることが課題である。<br>②　教職員の中には、働き方改革の意義を理解はしているものの、行動が伴わず、依然として退勤時刻を大幅に過ぎても仕事に従事し、結果、残業時間を増やしてしまっている例も見られることが課題である。<br>③　教員の勤務体系（勤務時間や休業日の扱いなど）や学校が本来行うべき業務については、保護者や地域に周知が進んでいるが、一方で担任依然とした捉 |

## 学校評価　※学校ごとに記述

| 今年度明らかになった課題　※「第2回学校関係者評価」を踏て記述 | 来年度の改善方策　※「第2回学校関係者評価」を踏て記述 |
|---|---|
| ○「豊かな心」については、「いじめの防止」の取組も含め、より一層の充実が求められている。<br>○学園研究・校内研究のいずれにおいても、カリキュラム・マネジメントを意識しつつ、児童の資質・能力の向上に結びつける研究を推進する。<br>○学園・学校評価については、具体的な学校の現状を保護者・CS委員に理解していただきながら、改善を図っていく。 | ●「豊かな心」の育成については、教育課程の重点としての「安全で安心できる教育環境」づくりにおいて、「いじめの防止」や様々な交流活動等、人と人との関わりを重視した活動を充実させる。<br>●「良い授業とは何か」という視点をもちながら、「個別最適な学び」「協働的な学び」の観点から、校内研修を柱とした授業改善に取り組む。<br>●学校公開や行事等を通し、保護者やCS委員等地域の皆様に、学校の取組を知っていただき、更なる改善につながるような評価項目や評価基準を設定できるようにしていく。 |

| 取組項目 | 学校の経営目標（中期目標） | 今年度の重点目標（単年度目標） | 今年度の重点目標を達成するための具体的方策 | 第1回評価 取組 | 第1回評価 成果 | 第2回評価 取組 | 第2回評価 成果 | | 学校関係者評価（第2回） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 人間力・社会力の育成 | 学園目標の実現に向けた取り組みの一つとして「未来塾」を位置付け、その取り組みの充実を図る。 | 「自ら学ぶ力」「ねばり強く取り組む力」の育成のために大学生の指導員等による「地域未来塾」をSC推進員との協働により6月中にスタートし、個別最適化された学びの場の一つとして活用する。 | ○「未来塾」を学習支援の場としても活用するために、定期募集だけでなく、教育相談や面談等を通じて入塾できる仕組みをさらに整備する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | | 新規の大学生の支援員が1名加わった。2学期に追加募集をしたところ、新規に5名の児童が参加し合わせて21名の児童が参加した。よって取組の評価は4とした。<br>　地域未来塾に参加してできるようになったことが増えたと回答した児童は前回同様100％であった。よって成果の評価は4とした。次年度については、他学年に拡大することも想定し準備をしていきたい。 |
| 学園・学校運営 | 「カリキュラム・マネジメント・ガイド」に基づき、小中学校間等のつながりを意識し、地域の教育資源を活用した教科等横断的な指導の実践化に取り組む。 | 「地域の教育資源の活用」「学園目標に基づく教科等横断的な授業づくり」の二つの視点から学校分科会としての実践研究に取り組む。 | ○学習指導部が中心となって1学期中に授業者を決定し、2学期に校内での共同授業検討を行ったうえで研究授業を実施して学園で共有する。 | 4 | 4 | 4 | 4 | | 1月末までで校内研究で6つの研究授業、学園研究で2つの研究授業を計画通り実施した。校内研究では課題に応じて、国語、体育、算数、学級活動等、様々な教科・領域で行うことができた。学園研究では中学校との接続という観点での算数の授業を行った。よって取組の評価は4とした。<br>　研究授業を自身の授業に生かすことができたと回答した教員は95％であった。実際に学級活動等は学んだことを取り入れて行っている姿が見られた。よって、成果の評価は4とした。研究については、カリキュラムマネジメントの視点で個別最適な授業、協働的な学びを意識した授業づくりを次年度も継続していきたい。 |
| 小・中一貫教育校としての教育活動 | 個別最適な学びと協働的な学びの実現に向けた授業研究を行う。 | 学習指導部が中心となり、校内での研修を充実させる。「よい授業とは何か」を追究する。 | ○学習用タブレット端末を活用したり、対話や話合いを重視した授業をデザインしたりする授業研究を行う。<br>○提案授業に対し、主任教諭が主に校内講師を務め、校内でも学び合いを通した授業改善を図る。 | 4 | 4 | 4 | 4 | | 「良い授業とは何か」という課題を意識し授業づくりに取り組んだと回答した教員は96％であった。研究授業後の協議会において、教員同士での話し合いも充実させることができた。また、研究授業の講師を校内の主任教諭が務めることで、主任教諭が若手教員に対して指導する立場であると自覚も高めることができた。よって、取組の評価は4とした。「良い授業」については、今後、全体で共有・確認をし次年度に繋げていく。<br>　タブレット活用や話し合い・対話を大切にした授業を行ったと回答した教員は96％であった。話し合いや対話については、授業の中で当たり前のこととして行われている。よって、成果の評価は4とした。パソコン環境の変更に伴いタブレット活用の幅が広がったことも効果的になっている。 |
| 児童・生徒の学力・健全育成 | 児童が互いを尊重し合う温かい集団を形成し、三鷹の森学園への帰属意識を高めるとともに、地域や学園の活動を通して自己有用感を育むことで、地域の一員としての自覚を培う。 | 高山小学校、第三中学校、近隣保育園・幼稚園との交流活動など、コロナ禍においても実施可能な方法を検討し、児童の活動の機会を作る。<br>いじめのない学校づくりのために、「いじめ見逃しゼロ」を合言葉に、いじめに対する意識を高め、未然防止や早期発見に重点を置いた取り組みを行う。 | ○児童・生徒会交流会、夏休み中の小学校学習ボランティア、プレ中学生体験、部活動体験、小小交流、保育園・幼稚園、地域の方等との交流など、基本的な感染防止対策を講じつつ、効果的に実施する。 | 未 | 4 | 4 | 4 | | 中学校体験を実施し、1月末には5年生の小小交流を予定している。また保育園との交流を3月に、地域の方との昔遊びを通しての交流を2月に予定している。予定していた交流活動はすべて実施できる見通しのため取組の評価は4とした。次年度以降は地域との交流もより活発に行いたい。<br>　特別活動のうち「スマイル班活動に協力して取り組んだか。」という質問に対し、肯定的な回答は94％であり、前回より13％上昇した。否定的な回答が中学年の半分で他より高いが残りの半分は低めであった。よって成果の評価は4とした。次年度、行事を含めた特別活動の見直しもしていく中で更に児童が特別活動に対し肯定的に受け止められるようにしていきたい。 |
| | 体力向上のための取組、基本的な生活習慣の定着により、心身の健康を高めようと自覚できるようにしていく。 | 家庭と協力しながら基本的な生活習慣の定着を図るとともに、児童の実態に即し体力向上の取組を工夫する。 | ○教科担任制による体育の授業の工夫、乗り入れ授業、体力テストの結果に基づく重点的な指導など実践していく。<br>○基本的生活習慣の定着については、学校全体・学年全体での共通理解を図りながら指導していく。 | 4 | 4 | 4 | 4 | | 基本的生活習慣の定着について、共通理解を図りながら進めたと回答した教員は100％であり、前回より10％上昇した。生活指導夕会での確認、廊下歩行や挨拶運動等の取組を具現化も図った。よって取組の成果は4とした。<br>　体育の授業について。教科担任制を活用して計画的に行ったと回答した教員は100％であった。種目については次年度検討が必要ではあるが、運動会練習も計画的に行うことができた。体力向上の縄跳び旬間、持久走週間なども予定通り実施できている。よって成果の評価も4とした。ただし児童の体力については三鷹市の平均より下という実態もあるため体力向上の取組は今後も重要である。 |
| コミュニティ・スクールの運営 | 地域人財、学校周辺環境を活用した教育活動を推進する。 | 学校三部制も踏まえ、課題を整理しながら、様々な地域人財との関わりの機会を持続していく。 | 授業におけるゲストティーチャーの活用、地域子どもクラブの取組、PTAやオヤジの会との連携、総合防災訓練、学校農園の活動などを充実させる。 | 4 | 4 | 4 | 4 | | 年間予定に従い、計画されていた授業や行事は達成できている。農園の取組、総合防災訓練への協力、防災授業、「学びの会」等、地域の方と連携した取組を行うことができた。よって取組の評価は4とした。<br>　地域人財を活用した授業を行った結果、児童の学びが深まったと回答した教員は82％であった。前回より4％下がってはいるが、成果の評価は4とした。地域人財の活用があまり行われていない学年もあることから、次年度は更に、感謝の気持ち、郷土愛、地域貢献などの気持ちを育てるために、地域人財を活用し、授業の充実を図ることができるよう計画していく。 |
| 学校の働き方改革 | 業務内容、行事等の見直しを更に進めるとともに、教員自身の意識改革を図る。 | SSS、校務支援システムや学習用タブレット端末の活用により、業務内容の見直しや改善を図る。 | 管理職と主幹教諭との会議により実状を分析し改善策を検討するとともに、教員一人一人の勤務実態を掌握し、必要な手立てをとる。 | 未 | 3 | 4 | 3 | | 業務改善面接を時間を負担にならない1時間を限定し3回実施した。また月3度程度の管理職と主幹教諭の打ち合わせを行う中で、教職員の負担を軽減するために、会議の削減を行ったり、この打ち合わせで業務内容を確認したり、教職員の負担軽減に務めた。よって取組の評価は4とした。<br>　教員自身が自身のワークライフバランスを意識して職務に取り組んだかどうかのアンケートの結果、72％の教員が取り組めたと回答した。前回より5％減っている。教員個々の課題に対応する必要がある。よって成果の評価は3とした。ただし、平均残業時間は1学期34．5時間に対し、2学期（8月は除く）は31．5時間と3時間削減できた。次年度以降も無理なく減らせるよう工夫を重ねていく。 |

| 取組項目 | 学校関係者評価（第2回） |
|---|---|
| 人間力・社会力の育成 | 適正かつ妥当(18)<br>・入塾できる仕組を更に整備する。どのように整備するか記載するとよい。<br>・地域未来塾は課題のある児童への個別支援なので全体への周知は難しい。その中で参加児童の肯定的評価が80％を超えていることは評価できる。<br>・地域未来塾については児童の達成感も大いに期待できるので拡大できるとよい。<br>・地域の紹介によって支援員が増員できたこと、支援員の熱意によって充実した活動ができたのは今年の収穫である。<br>・この取組は、学習支援の新しいモデルとして非常に有効である。大学生支援員の導入による個別指導の強化は効果をもたらしている。今後、参加児童のニーズに応じたカリキュラムの調整や更なる支援員の確保と育成が課題である。<br>・来年度以降、コミュニティ・スクールの運営は未来塾以外の指標も入れてください。<br>・ |
| 学園・学校運営 | 適正かつ妥当(18)<br>・小・中学校教員が気付いたこ、それを今後どのように授業に生かしていく見込みなのかなどを分かりやすく保護者に発信することを願う。<br>・小・中一貫教育校としての取組は教員には肯定的であるが保護者には成果が見えにくい。保護者に分かりやすい表現で周知することが今後の課題。<br>・学園研究結果や気づき等をぜひ情報発信してほしい。<br>・研究授業について教員の負担が大きくならないよう進めていけるとよい。<br>・この取組は地域の教育資源を活用し、教科横断的な授業づくりによって教育の質を高めるという点で注目に値する。特に中学校との接続を意識した算数の授業は一貫教育のモデルケースとして有益である。今後もカリキュラムマネジメントの視点から個別最適な学びや協働的な学びの推進が重要であり、継続的な研究と実践の深化が期待できる。 |
| 小・中一貫教育校としての教育活動 | 適正かつ妥当(18)<br>・何をもって「良い授業」と教師が考えているかを保護者、CS委員に共有してほしい。<br>・保護者への広報が難しいですが、考えます。<br>・「確かな学力」を目標とした取組は、教員の研修と授業の質向上に注力することで成果を上げている。特に、学習指導部が中心となった校内研修や研究授業により「良い授業」の定義と実践方法の追究が進んでいることが評価される。協議会を通した意見交換、主任教諭による若手教員への指導は、教員間の協力体制を強化している。また学習用タブレットの活用や対話を重視した授業設計は現代的な教育ニーズに対応しており、これらの取組は今後の授業改善にもつながるだろう。今後の課題としては、これらの実践を更に深化させ、全体での共有・確認を進めることが重要である。 |
| 児童・生徒の学力・健全育成 | 適正かつ妥当(16)　不適切(2)<br>・いじめの防止については、学校だけでなく地域の協力も必要と考える。いじめを見逃さないために引き続き複雑的な地域との関わりをもっていただきたい。いじめに対して行った具体的内容を知りたい。<br>・年度初め、各学年に具体的なニーズを聞かせてもらうと地域人財を探すこともスムーズになるのではないか。<br>・様々な交流ができるようになり児童がたくさんの経験を積めるようになり上かった。<br>・この取組は、コロナ禍の安価でも効果的に交流活動を実施し、児童の社会性や共感性の向上に寄与している。児童の特別活動に対する高い肯定的評価は、これらの活動が児童にとって意味深く、効果的であることを示している。今後は中学年における否定的回答の原因を分析し、更なる改善を目指すことが必要である。<br>・取組が3学期に集中するため、評価に反映していない危惧がある。学園未に再度アンケートをとるなどの工夫が必要である。<br>・計画予定で実施済でないので測れない。いじめと自己肯定感は相関があると |
| 人間力・社会力の育成 | 適正かつ妥当(18)<br>・計画的に取り組み成果も出ていることは評価できる。投てきなど平均より低い実態にフォーカスした取組も検討したい。<br>・結果を伴う取組にしてほしい。<br>・健康と体力の向上を目指した取組は、家庭との連携と教科担任制を活用した体育の授業工夫によって成果を上げている。基本的生活習慣の定着に関する学校全体の共通理解の達成と、挨拶運動や廊下歩行等の具体的な取組は、児童の日常生活の質の向上に貢献している。体育の授業における教科担任制の活用、体力テストに基づく指導、運動会練習の計画的な実施は、児童の体力向上に有効な手段である。しかし、児童の体力が市の平均より低い という現状も踏まえ、今後は更に体力向上のための具体的なプログラムの開発と実施が求められる。継続的な取組と教員の工夫により、児童の健康と体力の更なる工場がさたいされる。 |
| 学園・学校運営 | 適正かつ妥当(18)<br>・地域人財を授業に取り入れることは、学年により差が出るのは仕方ないが、感謝の気持ちや郷土愛の気持ちを育てる取組は、「特別の教科　道徳」等で醸成したい。<br>・無理なく地域人財を活用した授業を更に取り入れられるとよい。<br>・この教育活動は、地域人財の積極的活用により、児童に多様な学習体験を提供している点で優れている。ゲストティーチャーの授業、地域子どもクラブの取組、PTAやオヤジの会との連携、総合防災訓練、学校農園の活動など豊富なプログラムは、児童のまなびの深化と地域への理解向上に大きく貢献している。一方で地域人財の活用まだ十分でない学年もあるため、全学年にわたる均一な取組の強化が今後の課題である。 |
| 学校の働き方改革 | 適正かつ妥当(18)<br>・学園アンケートの自由コメントで、ワークライフバランスに理解をしつつも若かに否定するおうなコメントが多かったように思う。教員の働き方の実態を適切に周知していくことを検討してほしい。<br>・行事の担当等一部の教員に負担が集中しないよう工夫することは大切である。今後も工夫を重ねどの取組が負担感を生でいるか精査したい。<br>・残業時間の削減方法を具体的に記載が必要。残業削減が自己目的化しないよう留意してほしい。<br>・五小の働き方改革は、SSSや校務支援システム、学習用タブレット端末を活用し、教員の業務負担を軽減するための有効な手段を採用している。業務改善面接の実施や管理職と主幹教諭の定期的ないすち合わせにより、教職員の実務負担の軽減に積極的に取り組んでいる点が評価できる。しかしながら、個々の教員の課題に対する更なる個別対応が必要である。 |